

5 - 1 1987年12月12日相模湾北部の地震

Northern Sagami-Bay Earthquake of December 12, 1987

国立防災科学技術センター

National Research Center for Disaster Prevention

前報¹⁾において、これまで地震活動が非常に低調であった相模湾北部（湘南海岸沖）では、1987年に入ってから地震活動が活発となり、2月、3月および6月と、3回にわたっていずれもバースト的な地震活動が見られたことを述べた。その後、同領域では11月にもバースト的地震活動が現われ、さらに12月12日にはM 3.7の地震の発生を見るに至った。この地震の諸元は以下の通りである。

O T = 12/12 23^h 27^m 36.91^s, L A T = 35.151°N, L O N G = 139.352°E, D E P = 22.6 km, M = 3.7。

第1図は、相模湾北部における地震活動の状況を示す震央分布図であり、(a)は気象庁資料による最近60年間の地震活動、(b)は防災センター資料による1986年までの微小地震活動、(c)は同じく1987年以降における微小地震活動を示している。同図(b)において真鶴岬北東に見られる地震群は1981年5月に現われたバースト的地震活動²⁾であり、また(c)における平塚沖の地震群は1987年2月、3月および6月に発生した同じくバースト的な地震活動である¹⁾。その後11月25日前後に現われたバースト的地震活動は国府津－松田断層の延長線上に位置し、続いて12月12日に発生したM 3.7の地震も同じ延長線上の相模トラフ軸に位置している。

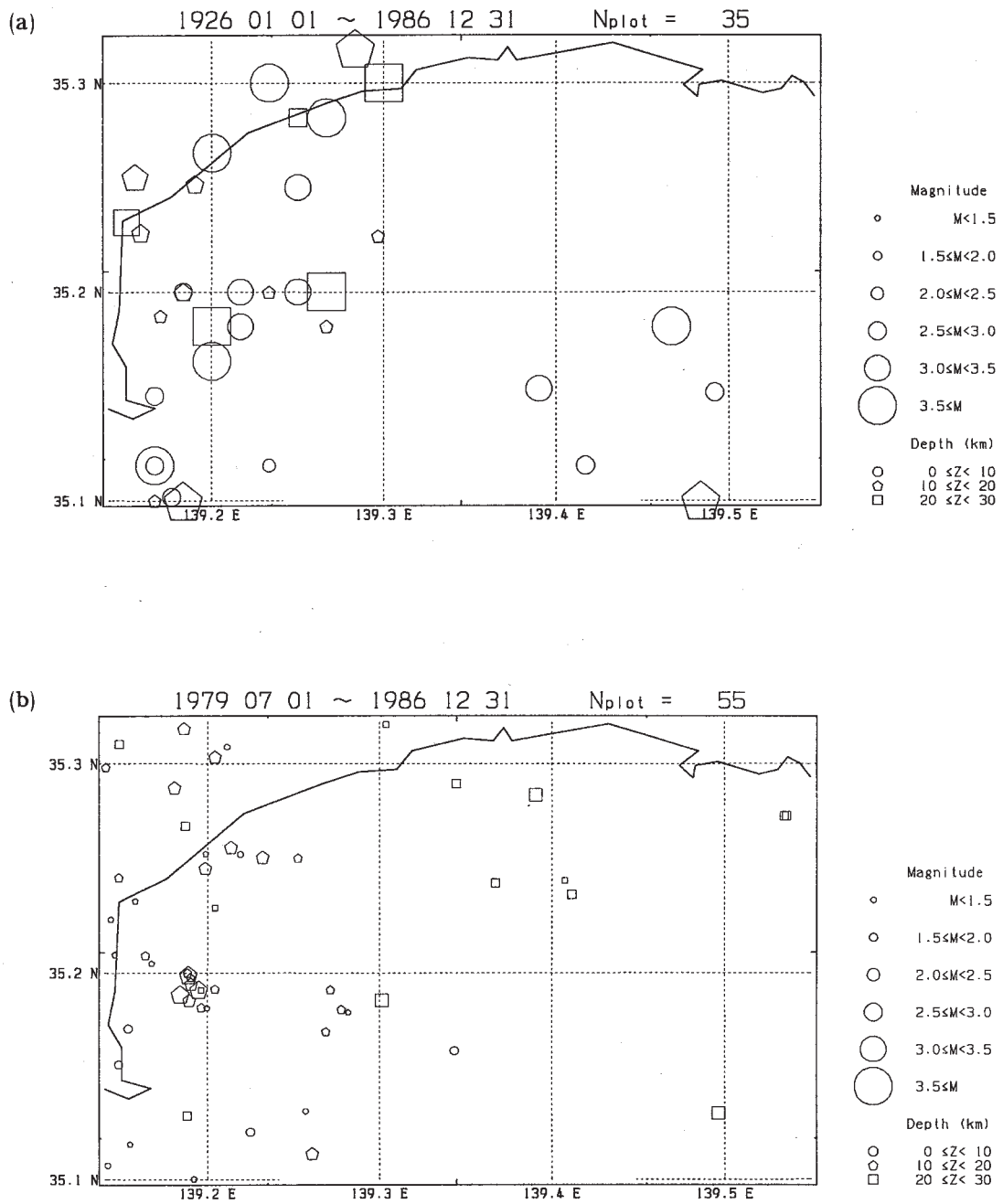
第2図は、第1図の領域内における地震活動の時系列を示す。(a)は気象庁資料による最近60年間のM-T図であり、この領域でMが3.5を超える地震の発生は26年ぶりであることが分る。(b)は防災センター資料による同地域での最近約9年間のM-T図である。

第3図は、12月12日の地震の発震機構解を示す。この地震による各観測点の初動は初島を除いてすべて引きと観測されており、4象限型の発震機構解を想定することは困難であるが、同図には、最良近似と思われる断層面解の節面を与えてある。

(岡田 義光)

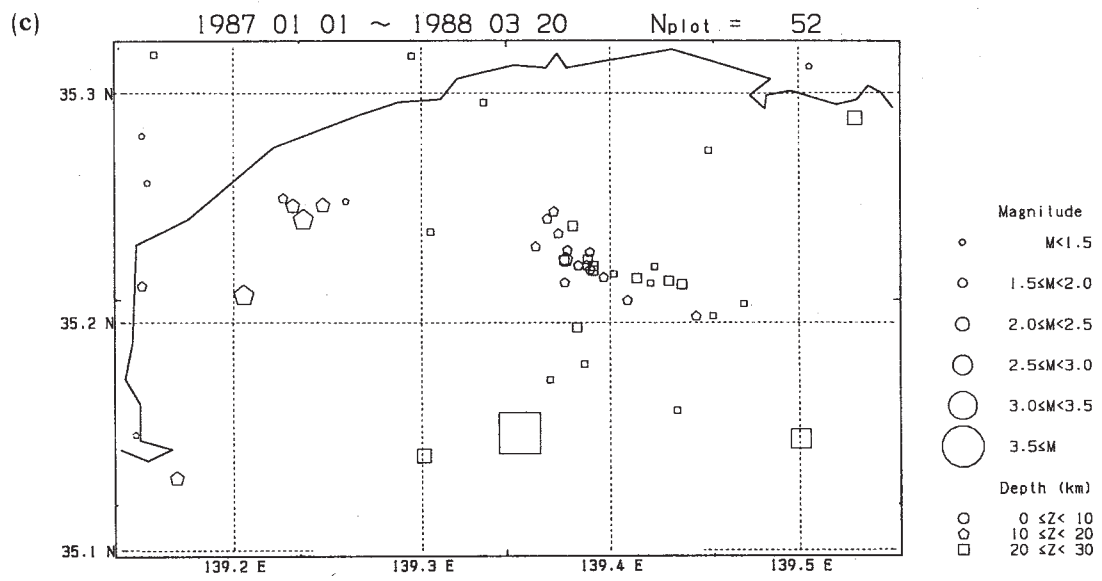
参 考 文 献

- 1) 国立防災科学技術センター：相模湾北部の最近の地震活動，連絡会報，**39** (1988)，107 - 112.
- 2) 国立防災科学技術センター：1981年5月上旬の相模湾西部の地震活動，連絡会報，**26**(1981)，146 - 148.

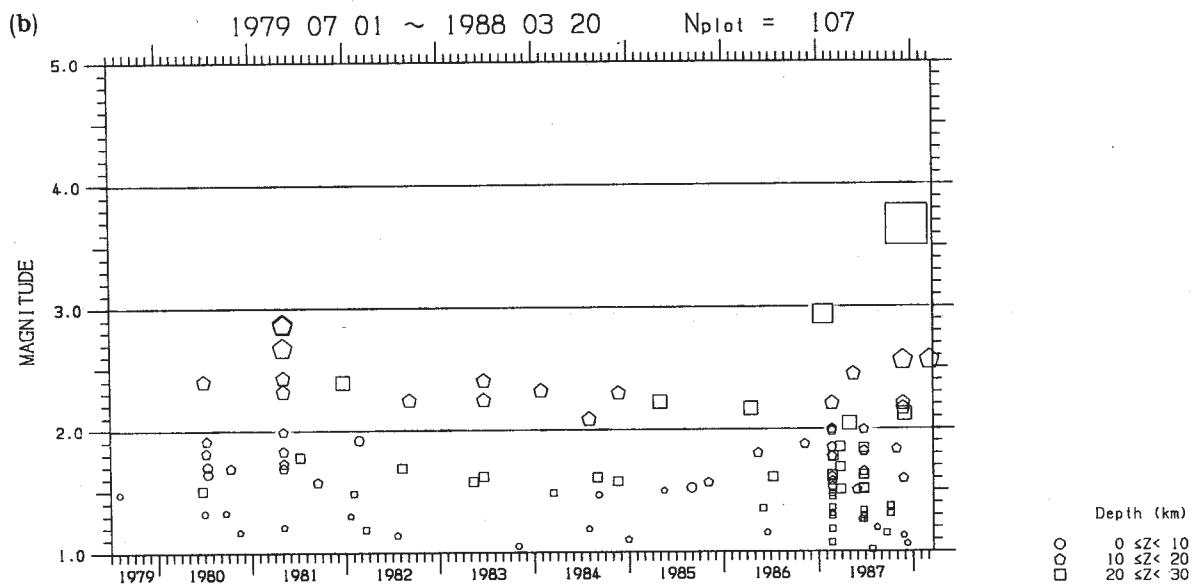
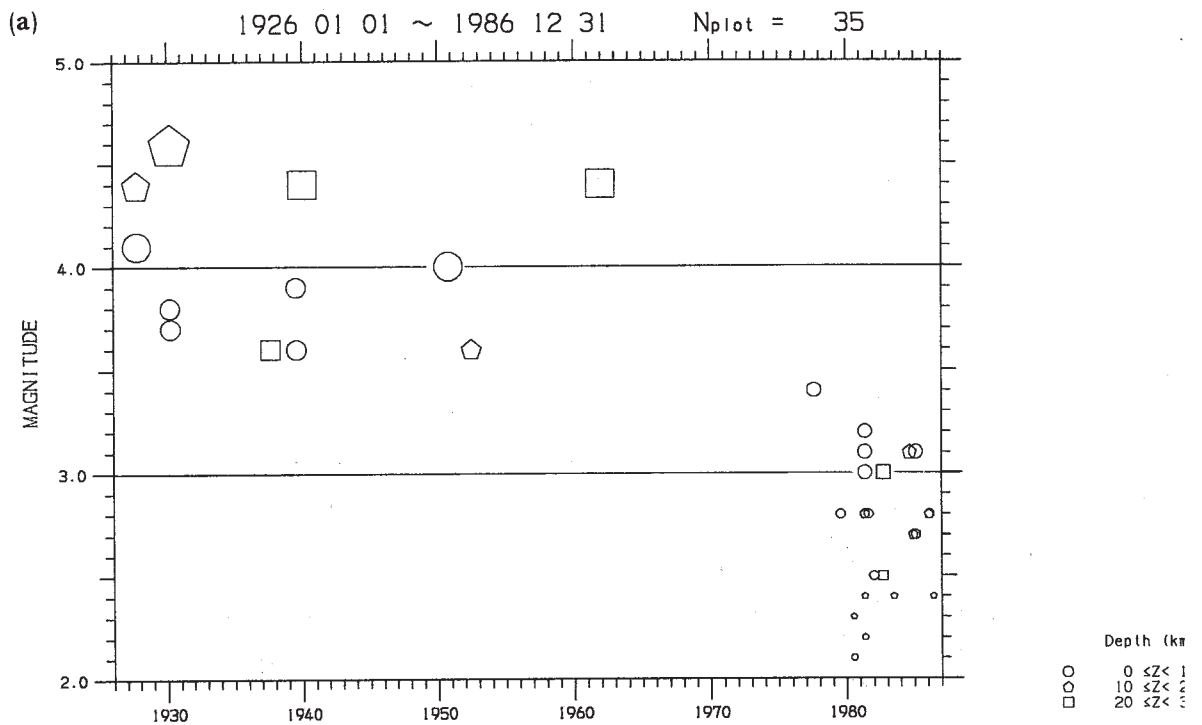


第1図 相模湾北部における地震活動 (a)1926 - 1986(気象庁資料による), (b)1979 - 1986(防災センター資料による), (c)1987 - (防災センター資料による)

Fig. 1 Seismic activity in the northern Sagami-Bay area. (a) 1926-1986 (JMA data), (b) 1979-1986 (NRCDP data), (c) 1987- (NRCDP data).



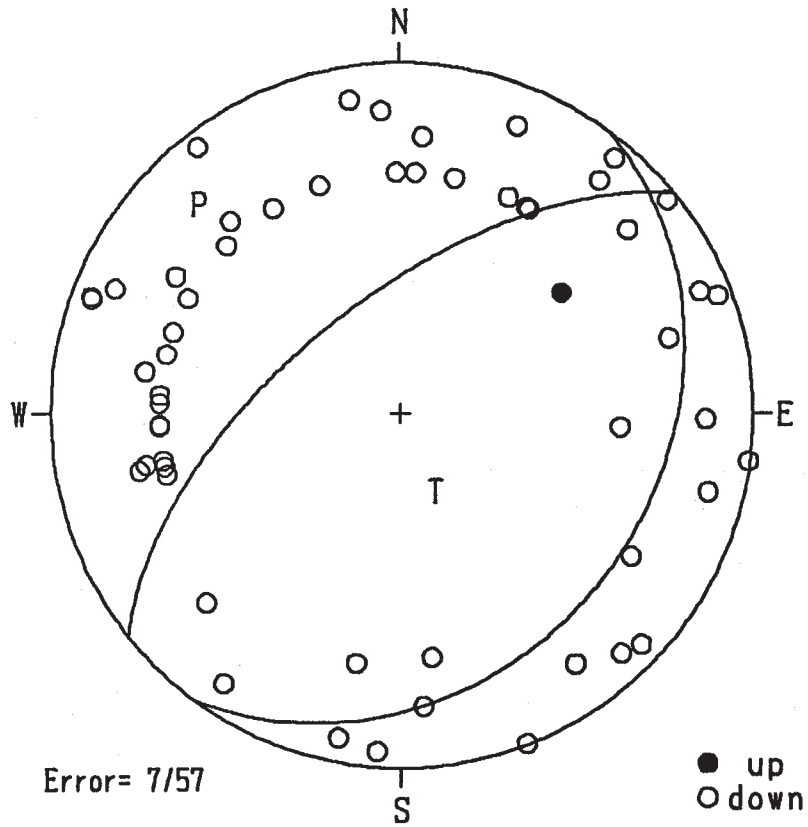
第1図 つづき
Fig. 1 (Continued)



第2図 第1図の領域における地震活動の時系列 (a)1926 - 1986 (気象庁資料による), (b)1979 - 1988 (防災センター資料による)

Fig. 2 Time history of the seismic activities in the northern Sagami-Bay area. (a) 1926-1986 (JMA data), (b) 1979-1988 (NRCDP data).

871212 23:27 M 4.0
35.15N 139.35E H22.6km



第3図 1987年12月12日相模湾北部の地震の発震機構解（下半球等積投影）
Fig. 3 Possible mechanism of the northern Sagami-Bay earthquake of Dec. 12, 1987 (lower hemisphere).